

# 2020 室内楽 セレクション チーム演奏会

2020年10月5日（月）

19:00 開演 [18:30 開場]

洗足学園音楽大学

シルバーマウンテン 2F

## △新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

# Program

## Chance Quartet／シヤンス・クアルテット

Vn. I 松本 志絃音(学3) Vn. II 山下 智史(学3) Va. 山本 里真(学3) Vc. 原 美月(院卒)

### W.A.モーツァルト／弦楽四重奏曲 第1番 ト長調 K.80

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // Streichquartett Nr.1 G-Dur K.80

### F.J.ハイドン／弦楽四重奏曲 第38番「冗談」変ホ長調 Op.33-2

Franz Joseph Haydn (1732-1809) // Streichquartett Nr.38 Es-Dur “Joke” Op.33-2

## Intermission

## Wood Wind Quintet Rosier／木管五重奏団 ロジェ

Fl. 佐々木 美緒(学4) Ob. 河村 真歩(学4) Cl. 原田 優(学4) Fg. 高橋 遥(学4) Hr. 影山 舞(学4)

### M.H.アーノルド／木管五重奏のための「3つの船乗りの歌」作品4

Malcolm Henry Arnold (1921-2006) // Three Shanties for Wind Quintet op.4

### S.バーバー／夏の音楽 作品31

Samuel Barber (1910-81) // Summer Music op.31

### F.J.M.プーランク／「3つのノヴェレッテ」より 第1番 ハ長調

Francis Jean Marcel Poulenc (1899-1963) // Trois Novelettes 1ère en ut majeur

### G.S.リゲティ／木管五重奏のための「6つのバガテル」

György Sándor Ligeti (1923-2006) // Sechs Bagatellen

# Program Notes

## W.A.モーツァルト／弦楽四重奏曲 第1番 ト長調 K.80

1769年12月、父レオポルトに連れられて、少年モーツァルトは音楽の本場イタリアへの旅に出た。神童は行く先々で称賛を受け、翌年3月にローディという町の宿屋にて14歳で初めてとなる弦楽四重奏曲に着手し、最初の3楽章を書き上げた。終楽章は約3年後に書き足され、父による手直しがありながらも、モーツァルトはこの作品に愛着を持っていた様である。ハイドンを初めとする巨匠らからの薫陶を受ける前の作品であり、繰り返しも多くシンプルであるが、モーツァルト特有の色も感じられる。

第一楽章 アダージョ(ト長調)。第一ヴァイオリンによる情愛溢れる旋律で始まり、終始穏やかに美しく重なり合いながら和声を紡いでいく。第二楽章アレグロ(ト長調)。ディヴェルティメントを連想させるような快活さと、決然とした意思のある楽章。第三楽章メヌエット(ト長調)トリオ(ハ長調)。素朴な暖かみのあるメヌエットは、唯一のハ長調であるトリオを含む。第四楽章ロンドアレグロ(ト長調)。軽快なテンポで楽しい旋律が運ばれて行き、曲が締めくくられる。

## F.J.ハイドン／弦楽四重奏曲 第38番「冗談」変ホ長調 作品33-2

三大古典作曲家のうちの一人であるハイドンは、室内楽でも弦楽四重奏曲を67曲残している。弦楽四重奏曲「冗談」は1781年に作曲、出版されたロシア弦楽四重奏曲6曲中の第2曲目である。終楽章の終わり方から「冗談」という副題がついている。細部に談笑と思われる音形が多く出てくることから遊び心がみえる作品となっているが極めて均衡が取れた曲であり、後のモーツァルトに大きな影響を与えている。

第一楽章アレグロ・モデラート。形式美の整ったソナタ形式。変ホ長調の豊かな響き。第二楽章スケルツォ(アレグロ)。中間部のトリオにおいて人々の冗談めいた言葉や談笑とも取れる音形が出てくる。第三楽章ラルゴそしてソステヌート。美しい穏やかな曲。第四楽章フィナーレ(プレスト)。フィナーレにふさわしい快活で愉快的な曲。冗談はどこやら。

## M.H.アーノルド／3つの船乗りの歌

アーノルドは英国の作曲家です。Shantiesとは船乗りたちという意味で、17~19世紀イギリスの海洋国家時代に歌われた数多くの舟唄の中から3曲抜粋し作曲されました。

快活な第一曲は「酔った船乗りはどうすればいい？」が主題に使われています。第二曲は「ボニーは戦士だった」を基にバラード調に演奏されます。第三曲はスウィングやジャズワルツのリズムが随所に散りばめられた愉快的な楽章で「ジョニー、ヒロにやっ来てい」の主題が各楽器に書かれています。

## S.バーバー／夏の音楽 作品31

バーバーは米国の作曲家です。20世紀はいわゆる「現代音楽」がヨーロッパから世界に広がった時期でしたが、流行りのモダニズムに囚われず、伝統的な豊かで華麗な旋律を書き続けたため「最後のロマンティスト」と評されます。彼が作曲した唯一の木管五重奏曲である「夏の音楽」は、デトロイト室内音楽協会から委嘱を受け作曲したものです。単一楽章で音楽的でありながらも、技術的にも非常に要求の多い密度の濃い作品です。

## F.J.M.プーランク／「3つのノヴェレット」より 第1番 ハ長調

プーランクはフランスの作曲家です。この曲はピアノのために作曲された「3つのノヴェレット」の第1番をエマーソンが木管五重奏版に編曲しました。ノヴェレットとは短編小説を意味し、3つの曲はそれぞれ違う性格を持っています。詩的で柔らかく、穏やかな第1番は音楽愛好家である叔母のリエナールに捧げられました。

## G.S.リゲティ／木管五重奏のための「6つのバガテル」

リゲティはハンガリー生まれのオーストリアの作曲家で、第二次世界大戦後のヨーロッパで現代音楽の発展に寄与しました。「木管五重奏のための6つのバガテル」には「ムジカ・リチェルカータ」というピアノ独奏曲の原曲が存在します。第1曲は2つの音から始まり、曲順が進むにつれて使われる音が徐々に増え、終曲第11曲で12音すべてを用いた音楽になるという仕組みになっています。この11曲の中から6曲を集め、木管五重奏版に凝縮したものが「木管五重奏のための6つのバガテル」となっています。

# Profile

## Chance Quartet／チャンス・クアルテット

2019年1月11日洗足学園に在学中の学生で結成。Chance/チャンスとはフランス語で幸福を意味する。コロナ渦のなか音楽を共有できる幸福。そのような意味も込めて。

2019年英トリニティー・ラバン音楽院教授ニック・ペンドゥルバリ氏の学内室内楽特別レッスンを受講。2019年度室内楽コンサート Vol.23in 前田ホール出演。2019年度第23回室内楽コンサート in みなとみらいホール出演。2020年度室内楽セレクションチーム認定。現在、学内にて大野かおる氏に室内楽を師事。

## Wood Wind Quintet Rosier／木管五重奏団 ロジエ

洗足学園音楽大学に在学する4年生5人によって結成され、2018年1月に活動開始。

幼稚園や小学校、高齢者施設、企業イベント等で演奏会を行い、2019年にはラ・フォル・ジュルネ TOKYO のキオスク公演に出演するなど、学内外で精力的に活動している。

浜の風コンクール 2020 カテゴリーB/G1v 最優秀賞グランプリ受賞。2018年度室内楽コンサート Vol.22 in 前田ホール出演。2018年度第22回室内楽コンサート in みなとみらいホール出演。2019年度室内楽セレクションチーム認定。2019年度室内楽コンサート Vol.23 in 前田ホール出演。2019年度第23回室内楽コンサート in みなとみらいホール出演。

2020年度室内楽セレクションチーム認定。松本健司、辻功各氏に師事。